

ジンタナ・ユニバン (Jintana Yunibhand) 先生をお招きして

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

渡部 富栄

新型コロナウイルスパンデミックで移動が制限される中、私の専門の(同時)通訳も Zoom などを使ってオンライン上で行うことが主流になった。今年 3 月に行われた国際看護師協会 (ICN) の Zoom 会議を通訳した折、久しぶりにジンタナ・ユニバン先生に会った。そのお顔を見たときに思った。先生を Zoom の講演に呼ぶことができたなら…。Zoom には通訳を設定する機能があり、同時通訳が可能である。ジンタナ先生にタイの看護について Zoom で講演をお願いし、それをライブで同時通訳すれば、看護学科の中で国際会議という貴重な経験ができる！

ジンタナ先生に初めて会ったのは、2006 年 11 月にシンガポールで開かれた ICN アジア・ワークフォースフォーラムという看護労働の課題を話し合う会議だ。先生はタイ看護師協会の代表として長年、ICN の大会に出席し、ICN 理事も務められた。専門は精神看護学で、タイの名門チュラーロンコーン大学看護学部で学部長兼教授、タイ看護師協会と規制機関であるタイ看護審議会の会長を歴任された重鎮である。チュラーロンコーン大学を定年退職された後も再雇用され、現在は准教授として大学院生の指導をされている。看護の学士号をタイで、修士及び博士号を米国で取得後は、一貫してタイで看護の向上に尽力されており、看護の実践や教育における文化の考察の重要性を強調されている。タイは農村・僻地が広範囲で、ケアへのアクセスと質を高めるためには高度実践看護師 (APN) の活用が不可欠である。その信念のもと、タイにおける APN の制度化を進めてきた第一人者だ。母語はタイ語だが、国際会議では誰にでも分かる英語で簡潔明瞭に話される。今回は多忙な中、詳細で分かりやすい講演要旨とスライドをご準備くださった。温かい人柄と教育への熱意で講演は予想通り学生と教職員を魅了して終わった。先生に心から感謝申し上げる。